

## 平成 22 年度第 1 回熊本市環境審議会会議録(要旨)

### 1 開催日時

平成 22 年 4 月 26 日(月) 午後 2 時 00 分～午後 4 時

### 2 会場

熊本市総合保健福祉センター「ウェルパルクまもと」1階ウェルパル広場(会議・セミナー室)

### 3 出席委員(順不同)

内野委員、天本委員、上拂委員、椛田委員、新村委員、東委員、喜安委員、長澤委員、徳永委員、宮原委員、井上委員、加藤委員、篠原委員、重村委員、藤岡委員、駒崎委員、上農委員、古賀委員、西村委員、委員 20 名中 19 名出席

### 4 議題

(1) 会長及び副会長の選任について

(2) 部会の構成について

(3) 審議事項

・第 3 次熊本市環境総合計画の策定について【資料 1～5】

① 策定に向けての基本的な考えについて

② 目指すべき都市像について

③ 計画の構成案について

④ 今後のスケジュールについて

(4) 報告事項

① (仮) 一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の策定について

② 平成 22 年度環境保全施策概要について

(5) その他

### 5 議事録

(1) 会長及び副会長の選任について

(2) 部会の構成について

委員の互選により会長・自然環境部会長に内野委員、副会長・総合部会長に篠原委員、副会長・生活環境部会長に加藤委員、総合部会副会長に西村委員、自然環境部会副会長に上農委員が選出された(坂口委員は欠席のため、承諾後に生活環境部副会長に決定)。

(3) 審議事項（環境審議会規則第10条の規定により議長は内野会長）

『第3次環境総合計画の策定について』 ①「策定に向けての基本的な考え」

○事務局

【資料1・2】により説明

○天本委員

・「世界に誇れる環境先進都市としてのまちづくり」について

ブラジルのクイチバは、交通の幹線をまず作って、それを利用しやすいような土地利用計画を行ない、今では世界中から注目され環境都市になっている。熊本に例えると、路面電車沿いだけ容積率を緩和、そこにたくさんの人が住み、マイカーではなく公共交通機関を利用しやすいようなまちづくりがなされているといった具合。熊本市はどこを目指して、世界に誇れるようにしていくのか。

○事務局

熊本市第6次総合計画のまちづくり重点的取組み「めぐみわくわくプロジェクト」において「ふるさとの自然を守り、世界に誇れる環境先進都市をつくる」ということを目指しており、「地球温暖化防止をリードする都市づくり」を設定している。昨年度、本市においては「低炭素都市づくり戦略計画」を策定、その中で、交通問題についても、都市計画の観点で長いスパンにはなるが、どう取組むかあげたところ。その他には「水と緑の空間づくり」についても、どう生かして行くのか、自然の豊かさはどうつなげていくのか取り組んでいる。また、熊本市域の中では、省エネに対して節水運動など市民の皆様方とのパートナーシップで取り組んでいる。それらを踏まえ、「環境先進都市」を一つひとつ目指していくことになろうかと思っている。環境には水も緑も公害関係もあり、総合的な取組みが必要。10年後には世界に誇れる先進都市を目指したいと考えている。

○東委員

環境の問題は環境関係の部局だけで考えていくわけにはいかない。どれだけCO2を削減しようと言っても、交通体系がうまくいかなければどうしても自家用車を使わざるを得ない。計画策定はプロジェクトの中だけでの検討か、それとも全庁的な会議を年間何回か行うのか。

○事務局

資料5のスケジュールで考えている。都市建設局、経済振興局等、全庁的に関係部局との連携した議論や調整を図る必要があり、すでに庁内検討会議を立ち上げたところ。かなりの頻度で開催になると思う。さらには、市民検討会議を立ち上げ、いろんな検討を重ねながら策定を進めていきたい。

○内野議長

一つの分野だけでやっていくと、他の分野との整合性が取れずに、一つだけ突出してやっていくというのが今まで得てあったが、そういうことがないように、資料1の下のところにも「3その他の策定における視点」で「分野別計画との整合性を図る」「熊本市都市マスタープランとも整合性を図る」とうたっているので、その辺を特にやってもらいたい。

○宮原委員

(資料1について)10年後の西暦2020年というのはとても大きな変革、環境面でもとても大きなことが起こるだろうと予想される。どこまでそれに対して考慮すべきか7点書いてあるが、今の段階においては政令指定都市に向けてとか、今後の環境問題、それから市民がいっしょになってまちづくりをしていく重要性、本筋はそうだと思うが、もう一つ大きくこれからは価値観を変えていく時代がくるのではないか。エネルギーにしても。そこから考えていくと、資料2の中にもう少し踏み込むことがあるのではないか。どこまでここに書くかということもあると思うが、資源の有効活用、交通関係においても公共交通と書いてあるが、もう少し先に進むとコンパクトなまちづくりまで考えないと、ただ交通網を配慮しただけでは10年後はもっと高齢化など厳しい時代になると思う。

最後の今後の目指す都市像の案の中に「③人が主役の自然豊かなわくわく環境先進都市」について、まちづくりにおいては人が主役でいいのかもしれないが、環境計画において人が主役だけでいいのか。最初の文面は「自然と共生する」とある。人が主役だとエゴに入ってしまう気がするので、もう少し大きな意味で物事を捉えないといけないと思う。

○内野議長

今の都市像についてはこのあと論議するが、前回の会議での意見がここに集約されている。それから10年後の環境都市については、低炭素都市づくり戦略計画でもいろいろ検討されたが、事務局から見通しの説明を。

○事務局

宮原委員の10年後の対応を深く考えておくべきではとのご指摘は、基本理念の中で「(2)深刻化する環境問題への対応」が一番大きいと思う。例えば、協働のまちづくり、人づくりの強化は普遍性があるのご指摘いただいた。私共も今後10年間の環境の変化には、想像できないような大きい変化があるかもしれないと思っているところ。基本的には10年間を見据えた事項をあげております。ただ、事項については5年間を目処に見直す必要があると考えているところがございます。資料2の「今後10年間を見据えた取組み事項」は箇条書きで書いているが、「現状分析」「今後の方向性」についても、項目一つひとつについて考え方をきちんと記載していきたい。最終的に計画の骨格には現状分析を踏まえて、考え方をお示していきたいと思っております。

○篠原委員

事務局にそのような考えがあるならば、5年後には必ず見直しを行うと明記をしてはどうか。合併、政令指定都市になると状況は変化し、時期的にちょうどいいのではないか。全面的というよりは、環境問題やまちづくりについて。区割制度で、いろんな面で問題が起こってくると思う。

○事務局

ご指摘いただいたように、明記させていただきたい。

○新村委員

熊本市の現状としては人口に似合った交通渋滞というのは厳しい状況。同じ交通量でも渋滞が引き起こされるとかなり排気ガスが増える。今後も熊本市域へ人口集中するとなると渋滞もますますひどくなると思われる。道路行政を見直していかないと、こういったものを取り入れるとして

も排気ガスも増えていくので、その辺も検討してもらいたい。

○事務局

低炭素都市づくり戦略計画は温暖化対策を視点にした計画だが、その中には当然、道路なり公共交通機関、市民の皆様との交通問題、ハイブリッドから電気自動車に替えていく、あるいはそれを使わずに自転車や歩いていただけるような方向とか、公共交通機関の利便性の向上などもうたっている。そういう中で多角連携の都市づくり、コンパクトシティが集約したようなまちづくりというような熊本市の都市マスとの連携を図り、整合性を図って計画を策定したところ。当然、環境総合計画は温暖化対策、環境問題だけでなく、良好な環境に育まれてきた歴史文化を含めた環境という視点で、大きく考えていきたい。

○椋田委員

「世界に誇れる環境先進都市」という中で、私も二度ほど訪問したが、熊本市の姉妹都市、ハイデルベルクは人口 30 万人前後だと思うが、ハイベルベルグ大学、熊本でいうと熊本大学、ハイデルベルグ城、熊本でいうと熊本城、ゲーテの散策ルートもあり、歴史と文化がコンパクトにまとまって世界中から観光客が来ている。交通体系も大事だが、例えば熊本市では白川中流域は涵養ということで大事な役割を持っており、さらに水源涵養ということで西原、南阿蘇に今すでに植林している。これは県や国も関与すべきだと思うが、上流域との結びつきをもっと強くするように積極的な施策が盛り込めるのか、行政区割りが違うから踏み込めないというのか、観光とも繋がってくる。新幹線が来て、阿蘇、天草がある。これは熊本が日本に、場合によっては世界に誇れるもの。熊本城に力を入れることはもちろん大事だが、水前寺、江津湖など水辺環境をもう少し取り入れる、当然、上流域との水の関係も入ってくるし、熊本市が阿蘇の方に植林すると、水の還元だけでなく、CO2 の削減に向けて努力していると言える。施策を公言すると、お題目ではなく中身はこうだと言えるような感じするので、その辺も一考願いたい。

○事務局

環境総合計画の中では、計画の範囲ということで熊本市域ということで、資料1の「1 計画の基本的位置づけについて」であげています。前回もそういうご意見をいただいており、私どもも広域的に考えていく必要があると思っています。環境は地域内で完結するものではないと思っております。考え方としては第3次環境総合計画の中に入れていく必要があると考えておるところでございます。ただ、どういう具体的な連携をしていくか、どういう事業をするかについては、環境総合計画の下にぶら下がる個別計画の中でも十分考えておられるので、それを生かすということを前提に、第3次環境総合計画の中にも考え方を入れさせていただく。

○上拂委員

全体的に言えば言葉が浮いていると思う。「世界に誇れる環境先進都市」とはどういう意味なのか、そのビジョンや理念の定義がされていない気がする。他にも「深刻化する環境問題」、環境問題はたくさんある。あと「協働のまちづくり」。市民と行政がパートナーとして公共を担うというフレーズはどの分野でも出てくるが、自治基本条例が施行されるから、とりあえず書いておこうかというのも否定できない。法律の専門家の視点からすると、言葉が浮いていて、よい言葉を使って

も定義が明確ではなく、よってビジョンや理念を達成する手段がいま一つ見えてこないと思う。パートナーシップには行政と住民だけでなく、行政機関相互というのもあると思う。交通体系のところでも出て来たが、熊本は公共交通機関は便利とは言えず、だから自家用車が増えて渋滞が起こり、環境によくない。環境生活環境、自然環境、歴史的文化的環境、住民環境とあって、例えば歴史的な町並み、景観を重視したら、先ほど「人間を中心とした環境まちづくり」と出たが、人間ではなく「住民を主体としたまちづくり」がいいと思う。ところが、自然環境を重視となると、「人間を中心とした環境まちづくり」だと、自然とは共生ではないかとなってしまふ。要するに、根本的な問題を言ったら、一番重要なビジョンや理念がしっかり定義されていないと具体的な達成する手段や計画もバランスが取れない、整合性に欠けるのではという感想。

○事務局

言葉の定義のご意見をいただいたので、一つひとつ踏まえながら作業に取りかかりたい。資料1の下の「3その他の策定における視点」の(3)のところでも、ビジョンをどう実現していくかということで、実現するプログラムとして重点的に取り組むべきことを横断的にまた総合的な視点でいくつか設定し示していきたい。作業を進め、その後、またご意見をいただきたい。

○内野議長

いろいろ貴重なご意見をいただいたが、基本的な考え方、方向性を今から具体的に定義などを考えて肉付けして素案を作るという段取りになっている。ほかにご意見は。

○加藤委員

環境省の本年度の予算の中で炭酸ガス対策、もう一つは次世代の子どもたちにかなり予算が付いていると思うので、次世代の健康な都市というか「健やかな子どもへの環境」というのをどこかに入れてはどうか。

○事務局

環境の中に健康との絡みが不明確な部分があり、環境と健康という面も併せて考えていきたい。

○藤岡委員

環境問題は今後の人間が生きていく社会には絶対に欠かせないものであると思っており、そうしたときに、人間を中心としたときはエゴの人間であったときに環境問題は人間破壊につながると思う。「人にやさしく」とか「人づくり」など書かれてあるが、書き方にも具体性、そこから何が見えるのかが大事になってくるという思いがある。

また、基本的な考え方の6番に「人づくりの強化」ときちんと述べてある。これから子どもたちにどういう社会をつくって残すか「環境教育」が一番大事と思っているので、もっと明確に出して欲しいということ要望したい。

○内野議長

一応、この基本的な考え方の構成はご了解いただいたということで、また庁内で検討し素案をつくってもらいたい。

②「目指すべき都市像」について

○事務局

【資料2・3】により説明

○内野議長

熊本市都市像のキャッチフレーズについて審議をお願いしたい。

○上拂委員

先ほど言っていたことと直に結びつくが、①は「人」にやさしい、「環境」にやさしいの順番だが、②になるとひっくり返っている。個人的には、環境というのは共生していくものだから、環境に優しいだから人にもやさしいがいいと思う。あと「人」という言葉の意味について、①や②は「人」そのまま、特に②は次世代の人材育成だから「人」づくりだと思う。ただ、③は「人が主役」となると人間中心の環境なのかとなってしまうので、設定理由に「市民力を活かし」とあるから「市民が主役」「住民が主役」という意味になるのでは。言葉はもう少し考える必要があると思う。

○内野議長

事務局からも言われたが、4つのうち、1つか2つくらいに絞っていただければと思うが。

○篠原委員

「環境先進都市」は手垢が付きすぎている。「環境モデル都市」としてやっているところもある。市民が本当に他の都市よりさらに進んだことをやることを望むのか。それよりは、市民が生きていくために心地よい、余裕のある人生を送れるようなまちであって欲しいと思う。急いで先進都市になる必要はないのでは。私は北九州に長くいたが、北九州は公害のイメージから脱却するためにそういう名前を付けた。熊本はもともと素晴らしいまちであり、何も先進都市にならなくても、生きていくのに住みやすいまち、誇りをもっていればよいと思う。言葉が浮いているとあったが、まさにこういう言葉を使うことに見直しが必要かと思う。

○宮原委員

①はまちをつくる、②は人づくりとまちづくり、③は自然豊か、④は自然を守る世界を守るで、それぞれが似通っている。環境にある程度携わっている者だけでなく、今後市民も入って一緒にやっという姿勢があったので、もう少し明確に、例えば②は人づくり、次に向けての人をつくっていくんだということがはっきりわかるほうがよいと思う。わかりやすくすっきりさせ、これでこう行動するのだなど見えるほうがよいと思う。私も普段は何気なく受けてしまうと思うが、言葉一つを考えながら、委員として他の市民の方々がやるぞと先が見えるものにしないといけない、選ぶ必要があると感じた。

○内野議長

事務局も苦勞して4つにまとめたと思う。「大先進的都市」「環境創造都市」とか前回出ていたから「世界に誇れる環境先進都市」とつくられたと思うが、他には。

○井上委員

私も同じような感想。「やさしい」もわかったようでわからない言葉。この4つはそれぞれもつともだと思うが、ぐっと気持ちに伝えない、すっと心に入ってこない。また聞いたような言葉だと市民

の方から取られそうだという気がする。単なるキャッチフレーズではあるが、市民に与える影響は大きいと思うので、各委員が後で持ち寄ってはどうか。

○内野議長

基本的な考え方を肉付けしてまた提出されるので、そういう風にフィードバックしながら最終的にキャッチフレーズができればいいかと思う。ただ、今のところキャッチフレーズも念頭に置いて、検討しながらやっていきたいと思う。では持ち帰ってお考えいただき、また議論するということがよいか。

○事務局

今日、決めていただくわけではなく、こういう方向性でまたご意見をいただきたいと思っている。事務局としても作業をしながら検討するし、そういう過程の中でいろんな提案もいただきたいと思っており、会長のご提案の通りいたしたい。

○内野議長

今回、提示された案は、前回いろんなキーワードなりキャッチフレーズが出ており、次回にまとめて提案しようということだったので、一生懸命提案してもらったと思う。委員の先生方、これを念頭におかれて、次回までにまたお考えいただき、最終的にできればいいと思う。

○加藤委員

市民の方に公募という案はないのか。賞金 10 万円とか。

○事務局

これはキャッチフレーズということではなく、環境総合計画の中で目指すべき都市像というものであるから、今後 10 年間でどういう都市像にするのかを最初に議論いただいた基本的な理念を踏まえて集約させていただきため、公募は考えていない。ただ、庁内会議、市民検討会議、パブリックコメントもあるので、その中で意見を集約していただければと思っている。

○椛田委員

①～④全てに「環境」という言葉が入っているが、「環境」というキーワードは入れなくてもいいか。例えば、都市像だからイメージだとすれば、できるだけ短い言葉でバンと言ったほうがいいのではと前回も提案した。四字熟語とまでは言わないまでも「人、自然、生きがい、熊本」とかでも構わないのか。

○事務局

「環境」という言葉が必須とは考えていない。都市像をこの 1 行だけで終わろうというものではないので、それがどういうものをきちんと記述していこうと思っている。

○古賀委員

市民代表(公募委員)として一言。市民として一緒に地下水保全のため節水に取り組んできたが、母親の立場としては、住みやすい、子どもを育てやすいということは、とても環境にいいことだと思っている。一言で言うのは難しいが、命を育む、住みやすいということは、子育てがしやすい。そういった環境であることは、母親としてまた市民として一番のキーワードだと思う。「命」はちょっと重い、水は命・生命体にとっても欠かせないもの。こんなに立派な地下水があるので、全

面的に大きく取り上げてもらえれば嬉しい。

○篠原委員

「環境と人を大切にする文化都市」という言葉はどうか。私は「文化」を入れたい。環境も人も大切に、言葉は浮いていないと思う。そして文化都市。文化がないと都市というのはさびしい。

○藤岡委員

私も「守ろう命」というのを思っていたが、重たいから言えないかなと思っていた。資料3の下の前回までの委員発言キーワードに「自然・地下水・緑・生態系の保全」と出ているが、すべて「命」であるという部分と、子どもたちに引き継ぐ、子どもたちの健康の面でも「命」を守る、今アトピーとか子どもたちが環境による影響、健康被害が大きいということで、環境とは切り離せないキーワードということで「命」。つなぎはわからないが「守ろう命」というキーワードが一つ。その下に「市民力・市民参加…」とたくさん出ており、人と人のつながり、共生社会。そういうものが頭に浮かんだので、どうつなげていくかはわからないが、「共生のまちづくり」「命を守ろう」をつなげていくところがあればと思う。

○内野議長

それでは、各委員、事務局を含めて、次回までの宿題とさせていただきます。

### ③「計画の構成案」

○事務局

【資料4】について説明

○内野議長

構成案は、実際に作業を進めるうちに変更が出てくるとは思うが、基本的な構成としてこういう案で出ているところ。

○宮原委員

推進体制のところを伺いたい。スケジュールでは市民検討会議は5回開催とのことだが、委員はその後どうされるのか。というのは、10年の計画を5年で見直す中で、評価をするというのが、前の第2次環境総合計画のときに、市民が話を一生懸命したが、その後、自分たちも検証するという仕組みに入っておらず、定期的な評価をする場がなかった。そういう場が市民検討会議なのか。もしくは、それ以外に一緒に総合計画を評価する場所があるのかどうか確認しておきたい。

○内野議長

事務局、市民検討会議について詳しく説明を。

○事務局

市民検討委員会はいくまでも環境総合計画を策定する上での、市民や事業者からのご意見、特に役割分担での議論でご意見をいただきたいというもの。市民検討会議は来月から開催し、そこでいただく議論を踏まえて、どういう環境総合計画がいいのかを話し合っていたいただきたいと思っている。15人程度、学識経験者、事業者の方、市民代表の方、若い方、学生など、年齢層も考えて偏らない構成で、環境総合計画に厚みを増すためにご意見をいただきたいと思っています。



る。そこで集約させていただいた上で、この審議会に諮りたいと考えている。ここに記載している市民検討会議は今年度、策定までの期間。進捗度合いの検証等については、別途推進体制の中で考えさせていただきたいと思っている。

○徳永委員

市民を巻き込んでやる総合計画になると思う。いかに市民を巻き込んでいくか、環境教育も入っているが、推進体制の中に教育委員会を含めた教育関係を巻き込む必要があると思う。小学生のころから熊本市ではこういうことをやっていると学校教育の中で、冊子なりをまいて、皆で考えてもらう時間をつくるようにする。そういう風に義務づけるような考え方を盛り込み、教育関係者、親御さんも巻き込んでいっていいのではないかな。

○事務局

環境教育の重点的配慮については、現在も学校との連携は必要と考え、庁内にも環境教育推進委員会を設け、直に教育委員会と話をし、学校でどう取り組んでいるか、またこちらからも学校教育の中でどう受け止めていただけるかを話しているところ。低炭素都市づくりの中では重点的位置づけに盛り込んでおり、盛り込めるならば盛り込んでいきたいと思っている。

○重村委員

自治基本条例が4月から発足し、その中に、議会と行政と市民の中で、一番脚光を浴びているのは機構改革もできた「まちづくり推進協議会」。各市民センター辺りにあり、教育委員会にあったのが新たに市民生活の中に入った。市民会議もいいが、パブリックコメントもいろんな問題があるので、まちづくりに提案すると、校区の中には7～9の団体があるわけだから、現場のいろんな問題を社協、体協、防犯、老人会等から聞いていただけるとよいと思う。

○事務局

市民会議とは別に広くご意見をいただきたいと考えているが、環境総合計画の下に個別計画があり、そこでかなり市民の皆さんの意見を伺っている。今回は市民検討会議を中心にさせていただきながら、あとは個別計画策定の中で住民の方の意見の聴取を検討させていただきたい。

○加藤委員

PDCA のサイクルを回すのは重要。環境問題は身近な問題なので市民の協力なしではやれないということもわかるが、市民の啓発を含めて検討会議をやっていく場合、そのときの事務局の根本的な方針としては、ボトムアップで行くのかトップダウンで行くのか。市民の知識・意識のレベルにかなり差があるので、正しい知識を持っていない人が意見を言っても却って曲がった方向に行きかねない微妙なところだと思う。心配なのは予算面。啓発、教育活動の予算は確保されているのか。

○事務局

現時点では予算の担保はない。本市の財政事情等あり、他にもいろんな施策がありますので、そんな中で優先順位を決めて一つずつ予算を取っていく形になると思います。ただ、計画的な執行も必要だと思いで、そういう体制の中で予算要求はしていくことになるかと思ひます。第3次環境総合計画の中では、具体的な事業のどれをするというよりも、総合計画の中で考え方、理

念を示し、個別的な事業については個別計画に委ねていくと考えております。

○加藤委員

わかったようでわからないような感じですが、相当予算をつけないとやれないだろうと思います。今日は市会議員の先生方もいらっしゃるので、環境・健康問題は重要です。予算をかなり付けていただいて市民の啓発、協力を巻き込みながら、ビジョンを実行していくことが重要だと思います。

○事務局

環境総合計画の中で全く事業をしないというのではなく、重点プログラム等については予算を要求していくと思う。個々具体的な事業については、個別計画に委ねることになると思う。

○篠原委員

第1章の下「3. 計画の範囲」の「本計画の対象とする範囲は」のところに「歴史的、文化的環境」と書いてあるが、第2章には「文化」がどこにもない。「世界に誇れる環境先進都市」はやめて、「世界に誇れる環境・文化都市」としてほしい。文化都市としてのまちづくり、熊本はそこを世界に誇るのではないか。大きな森とか環境的な歴史とかないのだから、環境を先進都市にしなくてよい。文化都市にする。「環境と文化」という項目があれば議論できるので、ここに是非入れていただきたい。「先進」はどの都市も言っており、今さら必要ないのでは。熊本市は熊本城などたくさんある。文化と環境をマッチングさせていいまちをつくってもらいたいというのが私の思い。

○内野議長

文化は私も賛成。ぜひ考えて欲しい。第3次環境総合計画は、第2次と比べると、基本理念に重点を置いている。また、第2次は、目標と指標が多くあったが、これは第3章の基本計画の「3. 目標と指標」に書き込むということ。委員の発言を念頭に置いて進めてもらいたい。

④「今後のスケジュール」

○事務局

【資料5】で今後のスケジュールについて説明

○駒先委員

県でも環境総合計画の新しい策定を予定しているところ。かつての社会主義国と違い、お金も人員も資産も地方も国家の思うままではなく、計画を策定しても世の中がそのように動かないということはたくさんある。道路や福祉の計画では具体的なことを書きやすいが、環境の場合はふわっとして書きにくいということがある。そうした場合に行政がつくる計画というのは、県民や市民に向かって、方向性、意気込みを示すという部分がある。こちらは全面展開型の計画になり、あれもこれとなり、結果的に総花的でよくわからないと批判を受けることもある。もう一方は、何点かに集中してゴールをはっきりして、実施計画的なものを書いていくもの。それぞれ一長一短があり、世間の評価もそれぞれです。熊本市が今回策定するものが、そのどちらかによって委員のイメージが違ってくと思う。「世界に誇れる」という具体的なものはないが、そういう意気込みで行くのか、それとも具体的に「水のきれいさ」では世界一を目指すのか、生物の多様性、70万人政令

市のすぐそばに江津湖や金峰山があるということ自慢にしていく等いろいろあるかと思う。事務局がどちらを目指すか示されると議論の集束に向かうのではないか。

○事務局

どちらかというと、今後 10 年間の意気込みを記載していく計画。個々の事業の積み上げは個別計画、具体的な事業もある。目指す都市像を高いレベルで求めて、それに対して意気込みを持って計画を作ろうと考えている。

○上拂委員

最近の自治体の条例の文言、表現の傾向として、饒舌な立法という言葉がある。昔は抽象的、客観的に保っていたものが、意気込みを示す、大胆なことも言うようになってきている。条例と計画は規範的には似たものがあり、どこまで述べるのかは審議会でもコンセンサスを取っておく必要がある。もう一点は、「文化」について。篠原委員が言われるように強調してもいいのかなという気がしており、それは具体的な実現の可能性もあると思っている。文化には歴史も含まれている。熊本城、古町の景観、他の部局との連携も必要になってくると思うが、熊本は水など環境には恵まれており、これに加えて積極的なことをするとしたら、文化だと思う。文化的側面をプログラムに位置づけ、キャッチフレーズには、文化という直接的な言葉ではなくそれを意味する言葉を入れればいいのか。

○内野議長

たくさんのご意見をいただいたので、これをもとに事務局は、今後、作業を進めて欲しい。

(4) 報告事項 (省略)

(5) その他 (省略)

6 閉会

(終)